

316号

2023年
1月

日赤みやぎ



▲NHK海外たすけあいキャンペーンオープニングセレモニーの様子(令和4年12月)
青少年赤十字加盟園のミッキー北仙台こども園の園児が元気いっぱい募金を呼びかけました。

新年のご挨拶(令和5年)

新年明けましておめでとうございます。県民の皆様には、日頃から赤十字の活動に対しご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

この数年来続く新型コロナウイルス感染症の流行は、今なお社会活動に大きな影響を与えています。赤十字の活動も例外ではありませんが、人道・博愛の精神が絶えることのないよう工夫を重ね、救急法等の講習普及、赤十字ボランティアや青少年赤十字の活動等を継続してまいりました。そして、県内でも被害をもたらした昨年3月の福島県沖地震や7月の大雨災害では、いち早く被災地のニーズを汲み取り、救援物資を届ける等「苦しんでいる人を救う」災害救護活動を行ってきました。また、ウクライナ周辺への支援のように紛争や災害によって苦しむ世界中の人々を救う国際活動も赤十字の重要な役割のひとつです。

今、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」赤十字の使命とその活動に対する期待は、ますます高まっています。人道の実現のために、今後とも皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社宮城県支部
支部長 村井 嘉浩



宮城県青少年赤十字 研究協力校実践発表会

新型コロナウイルス感染症の対策を取り、参集しての実践発表会を実施しました。天候にも恵まれ、先生方や地域の皆さま、青少年赤十字関係者の100名以上が一堂に会しました。会場では受付を終えると生徒のお出迎えがあり、参加者は青少年赤十字コーナーを目にしながら、発表・授業会場の体育館メインフロアに歩みを進めました。



▲開会式

期 日 令和4年11月4日(金)
会 場 塩釜ガス体育館
研究協力校 塩竈市立第二中学校

フロアは、開会・閉会行事、授業公開①②、パネルディスカッションの会場に分かれました。



▲全体の様子



▲3年生ポスターセッション



▲1年生道徳



▲2年生理科



▲3年生ポスターセッション

研究主題「関わり 求め 果たす 生徒の育成」

～聴き合いを取り入れた防災学習の指導の工夫を通して～

塩竈市立第二中学校は、青少年赤十字加盟校として防災教育の実践を公開しました。授業の学びに防災を取り入れた試みを1年生は道徳の学習、2年生は理科の学習、3年生は総合的な学習の時間でポスターセッションを披露しました。



パネルディスカッション

「防災の未来を子どもたちと迎えに行く」

東北大学災害科学国際研究所・佐藤健教授をコーディネーターに迎えて行われました。パネラーは、塩竈市教育長、地域代表の藤倉中央振興会会長、学年代表生徒と防災主任の佐々木先生でした。行政・地域・学校、子どもと大人という多様な視点から意見が述べられました。まとめに佐藤教授から地域を知る大切さとそれに対応した防災を考えるべきことが話され、充実した時間となりました。



日本赤十字社の防災教材について

日本赤十字社は、東日本大震災の体験をもとに「まもるいのちひろめるぼうさい」を平成27年度に刊行し、全国の学校に配付しました。(県内の学校には、同年度と令和2年度に配付)また、平成30年度には幼稚園・保育所向けの「ぼうさいまちがいさがしきけんはっけん!」を刊行しました。宮城県支部では、県内の青少年赤十字加盟園・施設へ配付し、その後は新規加盟登録時に無償提供を続けています。



宮城県支部のトピックス

海上保安庁との合同訓練を実施しました！

～災害時にいのちを守るために～

宮城海上保安部と日赤宮城県支部は、大規模災害が発生した際に相互に協力して救援・救護活動を行う協定を結んでいます。9月28日(水)、南海トラフ地震の発生を想定した実動訓練を行いました。仙台・石巻両病院の救護班と宮城県支部の要員が巡視船「ざおう」に乗船し、救援物資や資器材の搬送、傷病者のトリアージや応急手当等を連携して実施しました。また、今年は4年ぶりに多賀城高校災害科学科の生徒の皆さんが傷病者役として参加しました。訓練後に行われた検討会では、「船内スペースが狭く、患者搬送の動線の確保が難しかった」「患者を船外へ搬出することも念頭に置いた検討も必要」といった声が寄せられました。

いざというときに迅速な救援・救護活動を行うことができるよう、日頃から様々な機関と連携して訓練を実施しています。



支える皆さまに感謝の気持ちを込めて赤十字大会を開催！

赤十字の活動は、活動資金のご支援から活動の実施まで多くの皆様に支えられており、表彰伝達を通じて謝意を伝えております。10月27日(木)に開催した赤十字大会では、表彰基準に達した社資功労者(多額の活動資金をお寄せくださった方々)、業務功労者(奉仕団活動や活動資金募集等に一定年数以上尽力くださった方々)計318名が受章され、代表受章者に表彰品を贈呈しました。

受章者の皆様をはじめ、赤十字を支えてくださるすべての皆様に改めて感謝するとともに、人間のいのちと健康・尊厳を守る赤十字の使命を果たしてまいります。



▲大会の様子

いざという時の心肺蘇生・AED講習(パパ・ママ編) in アカチャンホンポ仙台泉店

11月19日(土)、アカチャンホンポ仙台泉店を会場に心肺蘇生・AED体験イベントを実施しました。今回、日頃より普及している赤十字講習の中から乳幼児を対象とした一次救命をメインにお伝えし、計18組46名が参加してくださいました。

参加者からは、「乳幼児を対象とした講習を初めて受けた。」「もしもの時、すぐ近くに頼れる人がいないので知ることができてよかった。」等のご感想をいただきました。

子どもの健やかな成長の一助となれるよう、今後も同様のイベントを実施していきます。



宮城県内施設のトピックス

仙台赤十字病院

新型コロナウイルス感染症対応の事例検討会を行いました

10月22日(土)新型コロナウイルス感染症への対応に関する振り返りを行いました。各部門の管理者を中心に、これまで当院で行ってきた感染対策や受け入れ体制についての課題や問題点、良かったことなどの情報共有を行うことで、今後の課題等が明確になりました。まだまだ先の見えない状況ですが、病院一丸となって今後も対応していきます。

検討会後には、災害時の食事提供訓練の一環としてキッチンカーによる炊き出しを実施し、温かい食事が食べられる大切さを確かめる機会となりました。



▲様々な事例・課題について検討する各部署の管理者

石巻赤十字病院 原子力災害医療活動訓練を実施



▲汚染部位を除染する医療スタッフ

10月29日(土)、地震発生に伴い女川原子力発電所で汚染・被ばくした傷病者が発生したという想定の下、傷病者への対応訓練を実施しました。

当院に搬送された傷病者へ除染、医療処置を施した後、さらに内部被ばくの疑いがある為、仙台市内の医療機関へ搬送するという一連の流れを検証しました。訓練に参加したスタッフは、防護具の着用や傷病者への対応手順について確認し、訓練後には意見交換を実施し、反省点や課題を洗い出しました。

当院は、女川原子力発電所から最も近い原子力災害拠点病院であり、汚染・被ばく傷病者への対応とそのための訓練や研修を行うことが義務付けられています。

今後も関係機関と連携を図り、定期的に訓練と研修を重ね、万が一の事態に備えてまいります。

宮城県赤十字血液センター

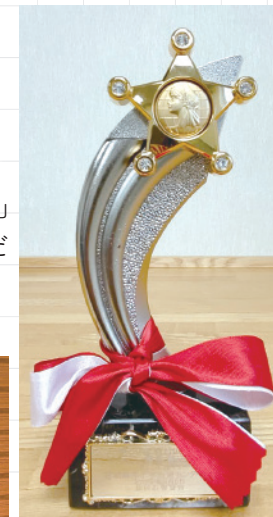
献血PRのラジオCMが 第52回仙台広告賞を受賞しました！

9月6日(火)ホテルメトロポリタン仙台において、献血PRのためのラジオCM「人類とは」がラジオ部門優秀賞を受賞しました。一人でも多くの方々に献血に興味を持っていただけるよう、ハリーポッターの世界を思わせるCMとなっております。

月～木14時台前半の時間にFM仙台のRAD番組内で放送しておりますので、お聞き逃しなく！

※仙台広告賞は、宮城県内に本社または事業所を持ち、仙台広告協会加盟の新聞・放送媒体に掲載または放送した広告等の中から、優れた作品を表彰するものです。

受賞式の様子▶



令和4年度東日本大震災復興支援事業

宮城県支部では、震災のことを忘れないよう後世へ伝えていく活動をはじめ、防災・減災への取り組みを続けています。



◀JRCオンライン語り部LIVE

全国の青少年赤十字加盟校の子どもたちに被災経験のある語り部さんの生の声をオンラインで配信し、自分のいのちを守る力を育てています。

防災ハンドブック▶

小学校1年生のお子様でも楽しく防災について学べる、仙台89ERSとコラボした防災ハンドブックを作成し、県内の小学校に配布しています。



新春オリジナルプチ福袋を10名にプレゼント!

- ① 住所・氏名・年齢・電話番号
- ② 本紙の入手場所・方法
- ③ 日赤みやぎの感想
- ④ 取り上げてほしいテーマ
(赤十字に関わること)
- ⑤ 自由記述(任意)

ハガキまたはメールで応募を受け付けます。

※令和5年2月3日(金)必着

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

メール

syain@miyagi.jrc.or.jp

ハガキ

〒981-0914

宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎8階
日本赤十字社宮城県支部 組織振興課「日赤みやぎ担当」にて

何が入っているかは
お楽しみ!



お役立ち情報 : 非常食かんたんレシピ



アネちゃんの
かんたんごはん帳
Vol.26
餅ピザ3種

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ認定フードコーディネーター
仙台市在住
赤十字救急法救急員 赤十字防災ボランティア
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に「アネちゃんのごはんいっぱい幸せ」(主婦と生活社)、「夜にちよこっとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

*材料(1人分×3種)

餅ピザ生地1台分(直径15cm・3種共通)
切り餅…3個 サラダ油…大さじ1
A(トマト&ランチョンミート)
粉チーズ…大さじ2 ケチャップ…大さじ2
缶入りランチョンミート(一口大に切る)…40g
B(照り焼きチキン風)
缶入り焼き鳥…1缶分 マヨネーズ…大さじ1
C(ツナ&マヨネーズ風)
市販の pastaソース&付属の海苔…1/2袋分

*作り方

1. 切り餅3個は、包丁で3mm程の厚さに切り、水大さじ2を和えておく。
2. フライパンにサラダ油を回し入れ、1を並べて、中火で5分程熱し、裏返して更に焼く。
※Aは裏返す前にフライパンに粉チーズ半量を入れる
3. 皿に2を取り、それぞれにA、B、Cを乗せる。
※あればAにドライパルメザン、Bに海苔、Cにツナを乗せる



最近、袋入り個包装のお餅の賞味期限が延びたというニュースがありました。各メーカーのお餅は、1年半や2年と長いので、ローリングストックするのにぴったり。いざというとき、あずき缶と一緒にあんこ餅にするのもよいですが、長期保存可能な食材と合わせて餅ピザにするのもオススメです。餅ピザ生地は、先に焼いておき、最後にそれぞれを軽く再加熱すると全て熱々で提供できます。具材が貼りつかないタイプのアルミホイールがあると、餅の上に乗せてフライ返しで押しつけて整えることができます。万能なのは、市販の pastaソース。色々な種類があり、どれに乗せても美味。ランチョンミートはそのまま乗せてもよいですが、最後にフライパンでカリッと焼くとより美味しくできます♪



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

〒981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 (宮城県仙台合同庁舎8階)
TEL : 022-271-2252 FAX : 022-275-3004
MAIL : info@miyagi.jrc.or.jp
ホームページ : <https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/>

